

# 不正支払の検出

KYRIBA FACT SHEET

AFP（Association of Financial Professionals）が発表した最新のデータによると、74%の組織や企業が支払業務による不正未遂または実際の不正の標的にされたことがあると報告しており、不正の発生率は史上最悪を記録しています。CFOとトレジャラーは、一丸となってこうした不正を防ぐため、より完全な不正支払対策を講じる必要があります。

キリバの不正支払検出モジュールは、疑わしい支払を停止するリアルタイムな検出機能を含め、標準化された支払管理の有効性をさらに高めるものです。業界初となるこのモジュールは、カスタマイズされたリスクスコア計算、アラートの一元管理、完全な問題解決ワークフロー、ドリルダウン可能なKPIダッシュボードによるデータ可視化機能が搭載されています。

## 不正検出シナリオ

キリバの不正支払検出モジュールを使うことで、ユーザーはあらかじめ定義された検出ルールを用いて、注意を払う必要がある、以下のような疑わしい支払をスクリーニングすることができます。

- 国内送金でありながら受取人の銀行口座が海外の支払
- 既知のサプライヤーが存在しない国への海外送金
- 複数の支払に分かれているが、合算すると、支払金額のソフトリミットまたはハードリミットを超えている支払
- ERPからインポートされた支払への変更
- 新規または更新直後の銀行口座への初めての支払
- 支払履歴と一致しないイレギュラーな金額や日付の支払

## 支払業務の安全性を強化する

	通常の支払管理	キリバの不正支払検出
すべての支払いデータのリアルタイムなスクリーニング	✗	✓
ユーザーが定義可能な支払スクリーニングルール	✗	✓
疑わしい支払いを調査するための問題解決ワークフロー	✗	✓
支払規約に違反し、警告対象となるユーザーを除外するオプション	✗	✓
アラートのステータスと優先順位を確認可能なKPIダッシュボード	✗	✓

## キリバの不正支払検出モジュールは、疑わしい支払いを停止するリアルタイムな検出を含め、標準的な支払管理の有効性をさらに広げるものです。

設定の際には、許可されたユーザーは、不正検出シナリオごとに、問題が完全に解決するまで銀行送金を停止するかどうかを決めることができます。

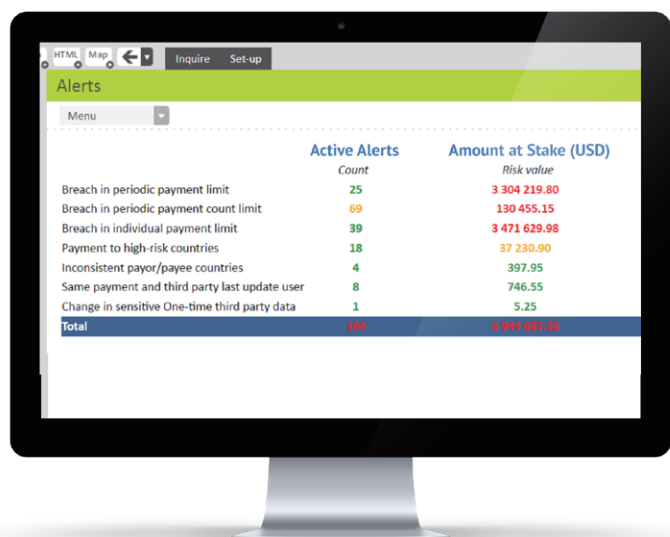
### リアルタイムなアラートと通知

キリバのユーザーは、不正支払検出ダッシュボードをカスタマイズし、疑わしい全ての支払を表示し、検出ルール、リスクエクスポージャー、インシデント発生回数、不正検出スコアカードなどのKPIを基に解決策の優先順位を設定できます。

ダッシュボードには詳細な調査を行うドリルダウン機能が備わっており、許可されたユーザーはすべての支払についてのスクリーニング状況を把握することができ、効率的に未解決インシデントを解決することができます。

### 不正防止ワークフロー

本モジュールは、未解決の疑わしい支払を管理するためのエンドツーエンドのワークフローもサポートしています。KPIダッシュボード内でアラートをカスタマイズするだけでなく、ユーザーは検出された疑わしい支払をどのように取り扱うかを決定することもできます。



たとえば、アジア地域への支払は追跡だけ行い、銀行への送金自体は止めない一方で、北朝鮮への支払については、詳しく調査できるまで送金を止めておくように設定できます。

### 問題解決ワークフローの機能：

- 支払登録者、支払承認者、検出された疑わしい支払に対するレビューそれぞれの職務を分離する
- 支払ルールや特定の支払シナリオに応じて、レビュー者を指定する（例：100万ドル以下の支払の場合は財務課長がレビューを行い、100万ドルを超える場合は財務部長に転送し、レビューを依頼する）
- 特定の支払のレビューについては、トレジャラー以外の担当者を割り当てる
- 支払登録者／承認者には検出された支払のアラートを非表示にするなど、特定のユーザーに対して、支払がアラートを引き起こしたことを知らせないように設定できる
- 指定されたユーザーが問題を解決するまで、シナリオベースで支払停止の判断を行う

### レポートと監査証跡

キリバの不正支払検出モジュールは、完全なKPIレポート機能を備えています。検出された支払はシステム内で恒久的に追跡できるため、日次、月次、年次報告に利用できます。履歴は半永久的に維持され、検出済み／解決済みアクションの監査証跡を含め、疑わしい取引に関する詳細情報は、内部監査部および外部監査用に維持されます。